芝生用除草剤

ポアキュア

ポアキュアは(株)エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

メチオゾリン乳剤

ベントグラス：グリーンカラー

コウライシバ：グリーン周り

**グリーン内、
グリーン周りに発生する
スズメノカタビラ、
メヒシバ対策に！！**

適用雑草と使用方法

2023年12月現在

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	メチオゾリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
日本芝（こうらいしば） 西洋芝（ケンタッキーブルーグラス）	一年生イネ科雑草	芝生育期（雑草発生前）	0.2～0.4mℓ / ㎡	200～600mℓ / ㎡	4回以内	全面土壌散布	4回以内
西洋芝（ベントグラス）	スズメノカタビラ	春夏期 芝生育期（雑草生育期）		200～300mℓ / ㎡			
	一年生イネ科雑草	春夏期 芝生育期（雑草発生前）					
		秋冬期 芝生育期（雑草発生前～発生初期）					

ポアキュアの特長

グリーンに発生するスズメノカタビラ、メヒシバに卓効

これまで悩まされてきたグリーン内のスズメノカタビラやメヒシバを効果的に防除します。

発生後のスズメノカタビラにも高い効果

発生前だけではなく、発生後のスズメノカタビラに対しても優れた効果を発揮します。

各種芝に対して安全性が高い

西洋芝（ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス）、日本芝（こうらいしば）に適用があり、ベントグリーン内及びグリーン周りでも安全に使用することができます。

✦ ポアキュアの作用について ✦

有効成分メチオゾリンは、細胞壁の生合成を阻害することで殺草作用を示すと考えられています。

1 吸収部位

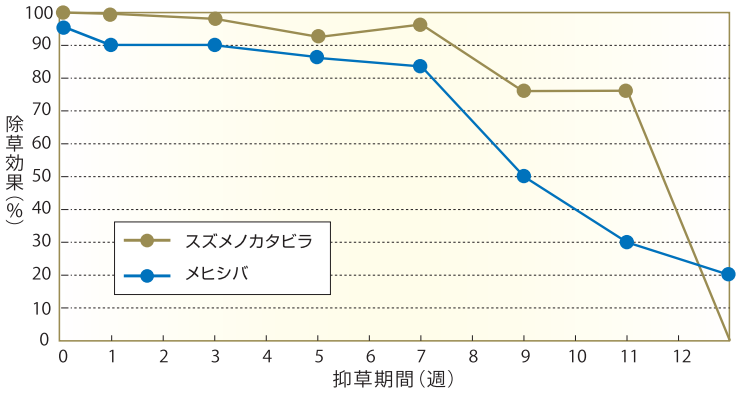
【スズメノカタビラに対する処理部位別の効果】

主に植物の根部から吸収され、地上部からはほとんど吸収されません。適用範囲内で散布水量を増やすか、後散水を行うことで効果が安定します。

2 抑草期間

【スズメノカタビラ、メヒシバに対する抑草期間】

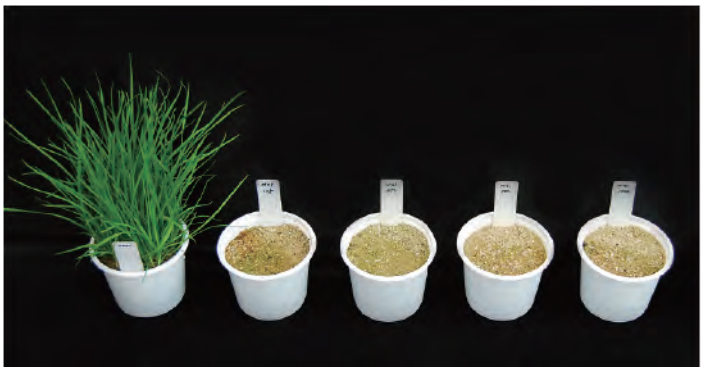
ポットに薬剤を処理(0.2ml/㎡)した後、定期的に雑草種子を播種し、発生の程度により効果を算出。(社内試験)



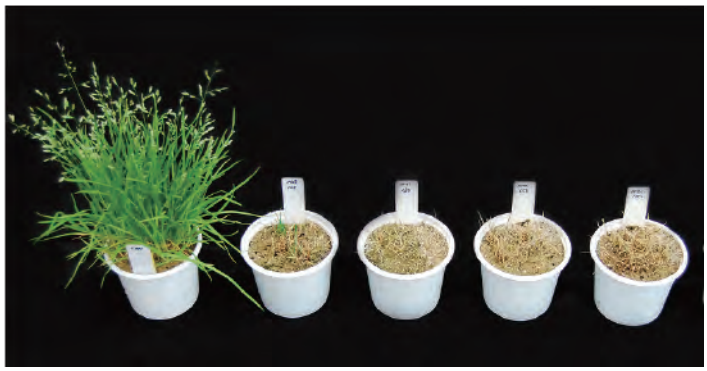
本試験では、7～11週程度の抑草効果が認められています。
ただし、気象や土壌等の条件により、実際の残効期間は変動します。

3 生育時期別のスズメノカタビラに対する効果

【発生処理前】



【2～3葉期処理】



発生前だけではなく、発生後のスズメノカタビラに対しても効果を示します。（メヒシバに対しては発生前のみに適用があります）※登録薬量は0.2mℓ/㎡～0.4mℓ/㎡です。

✦ 公的試験機関による試験結果 ✦

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験(2009年～2014年)

(抜粋)

			試験機関	試験場所	処理日		処理量 ml/㎡	散布水量 ml/㎡	除草効果	1回目処理から調査日までの日数	薬害
ベントグラス	スズメノカタビラ	発生前	東日本グリーン研究所	神奈川県ゴルフ場	1回目	2010年10月11日	0.2	250		58	—
					2回目	2010年11月 8日	0.2	250	大		
			新中国グリーン研究所	山口県ゴルフ場	1回目	2010年 9月29日	0.2	200		50	微
					2回目	2010年10月19日	0.2	200	極大		
		発生初期	東日本グリーン研究所	茨城県ゴルフ場	1回目	2013年11月 6日	0.2	200		※(120日程度)	—
					2回目	2013年12月 3日	0.2	200	極大		
			関西グリーン研究所	兵庫県ゴルフ場	1回目	2013年11月 8日	0.2	200		※(60-90日程度)	—
					2回目	2014年 1月16日	0.2	200	極大		
		生育期	東日本グリーン研究所	山梨県ゴルフ場	1回目	2013年 3月22日	0.2	200		84	—
					2回目	2013年 4月22日	0.2	200	極大		
			新中国グリーン研究所	山口県ゴルフ場	1回目	2013年 3月15日	0.2	200		48	—
					2回目	2013年 4月 5日	0.2	200	極大		

※抑草期間

ベントグラス	メヒシバ	発生前	東日本グリーン研究所	茨城県ゴルフ場	1回目	2011年 4月13日	0.2	250		60	—
					2回目	2011年 5月18日	0.2	250	極大		
			関西グリーン研究所	研究所内圃場	1回目	2011年 4月19日	0.2	250		61	—
					2回目	2011年 5月20日	0.2	250	極大		
			新中国グリーン研究所	広島県ゴルフ場	1回目	2012年 5月 7日	0.2	200		56	—
					2回目	2012年 6月 4日	0.2	200	極大		

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験 (2018 年～2019年)

			試験機関	試験場所	処理日		処理量 ml/㎡	散布水量 ml/㎡	除草効果	1回目処理から調査日までの日数	薬害
コウライシバ	スズメノカタビラ	発生前	東日本グリーン研究所	場内圃場	1回目	2018年 9月12日	0.2	600		56日	−
					2回目	2018年10月15日	0.2		大		−
						2018年 9月12日	0.3		極大		−
						2018年 9月12日	0.4		極大		−
			関西グリーン研究所	場内圃場	1回目	2018年10月11日	0.2	600		116日	−
					2回目	2018年11月14日	0.2		極大		−
						2018年10月11日	0.3		極大		−
						2018年10月11日	0.4		極大		−
			西日本グリーン研究所	場内圃場	1回目	2018年10月15日	0.2	600		62日	−
					2回目	2018年11月17日	0.2		極大		−
						2018年10月15日	0.3		大		−
						2018年10月15日	0.4		大		−

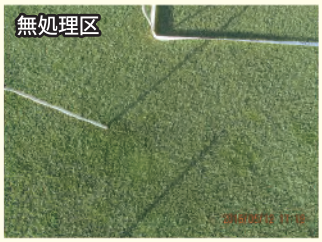
ケンタッキーブルーグラス	スズメノカタビラ	発生前	埼玉スタジアム2002	場内圃場	1回目	2018年10月26日	0.2	600		62日	−
					2回目	2018年11月26日	0.2		極大		−
						2018年10月26日	0.3		極大		−
						2018年10月26日	0.4		極大		−
			新中国グリーン研究所	竹原カントリークラブ	1回目	2018年 9月22日	0.2	600		56日	−
					2回目	2018年10月19日	0.2		大		−
						2018年 9月22日	0.3		極大		−
						2018年 9月22日	0.4		極大		−

✦ ベントグリーン内スズメノカタビラに対する試験事例 ✦（社内試験）

栃木県ゴルフ場（本グリーン/品種：ペンクロス）

処理日：2016/4/6　薬量：0.2ml/㎡ 0.4ml/㎡　水量：250ml/㎡　調査・撮影日：2016/5/12（処理36日後）

結果：無処理区に対し、0.2ml/㎡区、0.4ml/㎡区とも十分な殺草作用を示した。ベントに影響はなかった。



✦ ベントグリーン内メヒシバに対する試験事例 ✦（社内試験）

東海地区ゴルフ場（本グリーン/品種：L-93）

散布面積：350㎡

処理日：2016/6/20　薬量：ポアキュア0.3ml/㎡+茎葉処理剤A 0.2ml/㎡　水量：300ml/㎡

調査結果

調査方法：本数調査

2016年7月25日（中間）

メヒシバは確認・カウント出来なかった。
十分な効果が確認出来た。

本試験においてポアキュアと茎葉処理剤Aとの混用処理におけるベントグラスへの安全性は確認済みです。

2016年8月27日

例年と比較してメヒシバの株数は９割程度減少。
ポアキュアと茎葉処理剤Aとの混用処理による６月、１回処理の有効性が確認出来た。

撮影日：2016/8/27(処理65日後)

✦ ベントグリーンにおける使用上の注意点 ✦

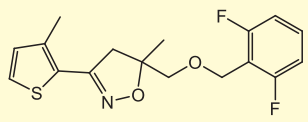
ベントグラスとスズメノカタビラの選択性は、吸収能力や代謝能力の違いによって生じると考えられていますが、ベントグラスの吸収・代謝能力は生育状況によって大きく異なります。
特に夏期高温期のストレスを受けたベントグラスや、その後の回復に向け吸収能力が高まっているベントグラスにポアキュアを処理すると、薬害を生じる場合があります。
従って処理時期や薬量については、それぞれのコースにおける事前試験により、確認する必要があります。

✦ ポアキュアの製品概要 ✦

種類名：メチオゾリン乳剤

成分：　メチオゾリン・・・・・・・25.0%
［(5RS)-5-［(2,6- ジフルオロベンジルオキシ）メチル］-4,5- ジヒドロ-5-メチル -3-(3-メチル -2- チエニル)-1,2- オキサゾール］
有機溶剤等・・・・・・・75.0%
［ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム（PRTR・1種）最大 2.9%］

メチオゾリンの構造式



性状：淡黄色澄明可乳化油状液体

安全性（製剤）：

人畜毒性	経口	ラット	LD_{50}>2000mg
	経皮	ラット	LD_{50}>2000mg
水産動植物に対する影響	コイ		LC_{50} 3.605mg /L(96hr)
	オオミジンコ		EC_{50} 11.7mg /L(48hr)
	藻類（緑藻）		ErC_{50} 7.6mg /L(0-72hr)

包装： 100mℓ ×10 本

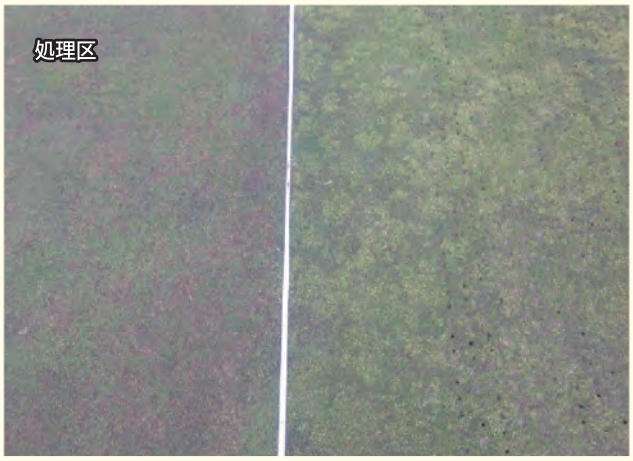
危険物：第4類 第二石油類水溶性　危険物等級 III（火気厳禁・石油ナフサ含有）

✦ ベントグリーン内スズメノカタビラに対する試験事例 ✦（社内試験）

茨城県ゴルフ場（練習グリーン/品種：ペンクロス）

処理日：2013/12/24, 2014/2/8　薬量：0.3ml/㎡+0.2ml/㎡　水量：200ml/㎡

結果：甚発生のグリーンで極大の効果を示し、薬害は無かった。



撮影日：2014/3/18

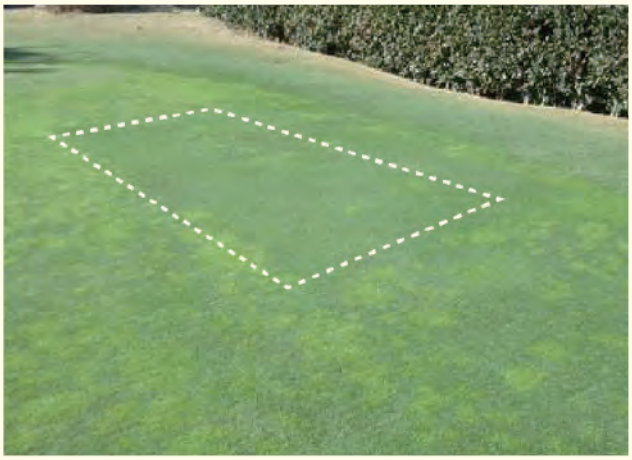
撮影日：2014/6/18

愛知県ゴルフ場（練習グリーン/品種：ドミネント）

処理日：2013/12/12, 2014/1/24　薬量：0.3ml/㎡+0.2ml/㎡　水量：250ml/㎡

結果：処理後1年以上経過しても、密度低減効果が持続している。

撮影日：2014/5/22



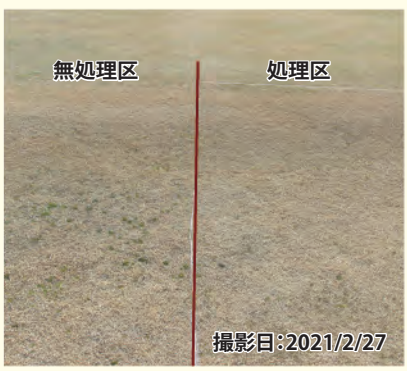
撮影日：2015/3/24

✦ コウライシバ/スズメノカタビラ発生前処理試験事例 ✦（社内試験）

千葉県ゴルフ場（練習グリーン周りコウライシバ）

処理日：2020/12/13,2021/1/16　薬量：0.2ml/㎡+0.2ml/㎡　水量：500ml/㎡

結果：無処理区に対して処理区のスズメノカタビラはわずかであり十分な防除効果を示した。



✦ ポアキュア使用上の注意事項（各種条件下）✦

1 物理的（機械的）ストレス下での使用

散布前にエアレーションをした場合は、目砂を行った後にポアキュアを散布する。
散布後2日以内はローラーでの転圧をかけない。
芝の生育が不調な場合は使用しない。

2 夏期～秋口にかけての使用

夏期高温時や芝地がヒートストレスを受けているような場合には本剤を使用しない。
ドライスポットの発生個所等では芝（グリーン面）が回復するまで使用を避ける。
本剤の散布前には根部の状況を確認することが望ましい。

3 日照不足や降雨が続いた場合での使用

本条件下で軟弱徒長の場合、根が浅い場合は、芝（グリーン面）が回復するまで
本剤の使用を避ける。

4 晩秋～冬期にかけての使用

厳寒期が続くと予想される場合には散布を避ける。
降雪地帯では本剤の使用には特段の注意をする。

5 他剤との混用

本剤との組み合わせ使用によるベントグラスへの安全性が実証されていない植物成長調節剤（PGRs）を含む農薬、肥料・資材・その他のいかなる製品とも混用しない。
展着剤や浸透剤などとの混用は避ける。

⚠ 効果・薬害等の注意

●散布液調製後は速やかに使用する。
●生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失しないように散布する。
●夏期の高温ストレス等により芝（特に根部）の生育が劣っている場合は、一時的に黄変等の薬害を生じることがあるので十分注意する。
● 0.2mℓ/㎡の薬量を散布する場合は、反復処理することで効果が安定する。
反復処理する際は、1回目の処理後1ヶ月以上間隔をあけて2回目を処理する。
●土壌が乾燥している場合には効果が劣ることがあるので、希釈水量を多めに散布する。
●激しい降雨が予想されるときには使用をさける。
●使用方法等を厳守する。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける事が望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。空容器は圃場などに放置せず適切に処理する。

●散布液調製時及び散布時は保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。使用後は洗眼する（刺激性）

●散布液調製時及び散布時は不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用し、薬剤が皮ふに付着しないよう注意。皮ふに付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす（刺激性）
●公園などで使用する場合、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後（最小限その当日）に関係者以外は立ち入らせない。小児、人畜等に留意する。
●危険物第四類第２石油類に該当するので火気には十分注意する。
●移送取扱はていねいに行う。火災時は適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。漏出時は保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。

保管・・・密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない冷涼な所。

製　造　場　大韓民国 ジョンラプク道 イクサン市 ナンサン面 サンダングピョンギル 125-22
韓国三共株式会社 イクサン工場

ご使用にあたっては

●ラベルをよく読む。●記載以外には使用しない。●小児の手の届く所には置かない。●空容器は圃場に放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。●洗浄水はタンクに入れる。

この印刷物の記載内容は2023年12月現在のものです。　23.12.0000Ver,4

■製造・販売
株式会社 エス・ディー・エス バイオテック
〒101-0022 東京都千代田区神田練塀町3番地 AKSビル

■販売
MBC 丸和バイオケミカル株式会社
ユニカス事業部　TEL 03-5296-2340

■取扱い